

福崎町 GIGA スクール構想推進計画

令和7年3月

福崎町教育委員会

第1章 福崎町 GIGA スクール構想推進計画の策定の目的

1 計画の策定の目的

これからの社会を生きる子どもたちには、自ら考え、複雑な問題を解決する力が求められます。GIGAスクール構想は、児童や生徒がこのような能力を育む上で、重要な役割を担っています。

GIGA スクール構想第1期(以下、「GIGA 第1期」という。)により、全児童・生徒に1人1台端末(以下「端末」という。)を整備するなど教育の現場に大きな変革をもたらす契機となりました。当町においても、ICT機器が日常的に利用できる環境が実現し、新たな学習の基盤が整いました。

一方、当町が整備(購入)した多くの端末は、令和7年12月にその耐用年数に達するため、同年に新たな端末を整備する必要があります。この新たな端末の整備を円滑に実施し、当町のGIGAスクール構想第2期(以下、「GIGA 第2期」という。)における学習環境をより良いものとするため、本計画を策定するものです

2 計画の位置付け

本計画は、文部科学省の「公立学校情報機器等整備事業」において、各自治体が策定することとされている各種計画から構成し、当町のGIGA第2期における学習環境を円滑に整備するための方針を示すものとして位置付けます。

3 計画の期間

本計画の期間は、令和8年1月から令和12年12月までの期間とします。

第2章 端末の利活用に係る計画

1 ICT環境によって実現を目指す学びの姿

GIGA第1期による1人1台端末の整備は、文部科学省が示した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具体化を図るものです。具体的には、児童や生徒の学習進度や興味関心、学習スタイルに合わせた最適な教材の提供やより有効な学習の補助を行うことで、一人一人の学習を最大限にサポートすることが可能となります。

また、グループワークやディスカッションなど、児童や生徒が協力して学ぶことで、より深い理解へとつながります。さらに、遠隔地にいる他者とも共同で学習できることなど、学びの幅を大きく広げることができるものです。

2 GIGA第1期の総括

GIGA第1期においては、全児童・生徒に端末が整備され、当町の学習環境は大きな変貌を遂げました。児童や生徒は、日常的に端末に触れることで、ICT機器を身近な学習ツールとして活用する機会が増え、新しい学びのスタイルを習得することができました。

一方で、端末の故障率の高さや、教科や学年により端末の活用状況に差が見られるなど、端末の利活用において様々な課題も浮き彫りになりました。そのため、堅牢な端末の整備や教職員に対する多角的なサポートの実施など、これらの課題を適切に対処し、現在の1人1台端末の環境を引き続き維持した上で当町のGIGAスクール構想のさらなる推進を目指す必要があります。

3 端末の利活用方策

以下の取組により、当町のGIGAスクール構想を推進することで、児童や生徒がいきいきと学び、成長できる学習環境の実現を目指します。

- (1) インターネットを活用し、児童や生徒が興味関心あるテーマを深く掘り下げ、自ら課題を見つけ、解決策を探求する教育活動を実施します。
- (2) 児童や生徒の学習状況をリアルタイムに把握し、個別指導やフィードバックを行うことで、学習効果の高い教育活動を行います。
- (3) プレゼンテーションツールを活用し、児童や生徒が主体的に授業に参加できる、双方向型の授業を展開します。
- (4) 特別な支援を要する児童や生徒の実態に応じたサポートを実現するなど、児童や生徒の学びを保障するため、クラウド型のサービスの活用など、学校外においても学習ができる環境を整備します。
- (5) デジタルシチズンシップ教育の推進やセキュリティ対策を講じることで、児童や生徒が安全に学び、成長できる学習環境を実現します。

第3章 端末整備・更新計画

1 端末の整備の考え方

当町は、令和2年12月に1,750台、令和4年10月に20台、令和6年3月に30台を整備しました。令和4年度、令和5年度に整備した端末については、更新を要する特別な事情がないことから引き続き使用することとし、この整備した端末を除いた端末を、本計画において更新対象となる端末(以下「GIGA第1期端末」という。)とします。

また、新たに整備する端末(以下「GIGA第2期端末」という。)に要する各種費用については、令和7年度兵庫県教育委員会補助金交付要綱の公立学校情報機器整備事業(公立学校情報機器リース事業)の規定に基づき、兵庫県に補助を申請します。

2 整備台数と整備スケジュール

(1) 整備台数

GIGA第2期端末は、1,650台の整備を予定しています。

(2) 整備スケジュール

GIGA第2期端末は、令和7年12月末までに各校への整備を完了する予定であり、現在児童や生徒が使用しているGIGA第1期端末については、各校が同年の冬休みにGIGA第2期端末と交換する計画です。

また、廃棄するGIGA第1期端末は1,750台を予定しており、端末に保存されているデータは当町職員が消去します。

なお、データが消去されたGIGA第1期端末については、再使用や再資源化など、適切に処分することとします。

第4章 ネットワーク整備計画

1 ネットワーク整備の考え方

文部科学省は、GIGAスクール構想が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、端末をつなぐ高速ネットワークが重要であると位置付け、「教育DXに係る当面のKPI」の一つとして「必要なネットワーク速度確保済み学校：100%（R7）」の達成を掲げています。本町としては、当該 KPI を参考に、ネットワークの整備を実施するものとします。

2 必要なネットワーク速度等

文部科学省は、同時にすべての授業において多数の児童や生徒が高頻度で端末を活用する場合にも、ネットワークを原因とする支障がほぼ生じない水準を示しました。

この水準は学校規模に応じたものであり、端末の利活用の日常化に向けてすべての学校が目指すべき水準とされていますので、当町においてもこの水準を参考に、必要なネットワーク環境を整備することとします。

3 必要なネットワーク速度の確保に向けて

当町においては、令和5年度にネットワークアセスメントを実施し、その結果より令和6年度にGIGAスクール構想のさらなる推進を実現するため、現時点におけるGIGA第2期に向けて最適なネットワーク環境を整備しました。

なお、今後の技術の進展や端末の利用頻度の増加等に伴い、必要な見直しを行っていくものとします。

第5章 校務DX計画

1 校務のDXの考え方

GIGAスクール構想により、教育現場におけるデジタル化は急速に進展しました。一方で、教職員による校務に関しては、押印やFAXなどの紙を用いたやり取りや手作業による事務処理など、非効率な業務が多数残されているのが現状です。

また、これらの業務は時間と労力を消費するだけでなく、ミスやセキュリティインシデントのリスクも高め、教職員のモチベーションや教育活動への集中力の低下につながる可能性があります。

このことから、文部科学省は令和の日本型学校教育を担う質の高い教師の確保のため、校務のDXの推進を重要施策として位置付けています。当町においてもこのような非効率な業務を廃止し、積極的にクラウド型のシステムを導入するなど校務のDXを推進することで、教職員が本来の業務である教育活動に集中できる環境を整備し、教育の質の向上を図ります。

2 校務のDXにより想定される効果

校務のDX化は、単なる業務効率化だけでなく、以下のとおり教育の質の向上に大きく貢献します。

(1) 教職員の負担軽減

事務作業を自動化し、教職員の働き方改革を推進することで、児童や生徒への指導に集中できる時間を増やすことができます。

(2) 情報共有の円滑化

クラウド型のシステムを導入することで、教職員間の情報共有がリアルタイムに行われ、連携が強化されます。

(3) データの利活用

児童や生徒の学習データなどを集積・分析することで、一人一人の学習状況を把握し、個別最適な指導が可能になります。

(4) ペーパーレス化

押印やFAXなど紙ベースのやり取りを廃止し、環境負荷を軽減するとともに、ミスやセキュリティインシデントのリスクを低減します。

3 校務のDXの推進における課題と解決策

校務のDXの推進における主な課題は、教職員のITリテラシーの不足やセキュリティインシデントのリスク、教職員の抵抗感などが挙げられます。これらの課題に対し、段階的な研修や成功事例の共有など総合的な対策を講じることで校務のDXを実現し、教育の質の向上を図ります。